

# 大学生の自我同一性と親の養育態度認知との関連

井上知子\*・三川俊樹\*・芳田茂樹\*\*

## Relations between Ego-Identity Status and Cognitions of Parental Attitudes to College Students

Tomoko INOUE\*, Toshiki MIKAWA\* & Shigeki YOSHIDA\*\*

### 要 約

本研究の目的は、青年期における自我同一性の達成状況（自我同一性地位）と親の養育態度の認知との関連について検討することである。分析に用いた被検者は男子139名、女子155名であり、調査は1995年5月に実施された。

まず、研究に用いるための親の養育態度認知尺度を作成した。30項目の形容詞対からなる予備尺度の項目に対する反応について項目間の相関係数を算出し、主成分法、バリマックス回転による因子分析によって下位尺度の構成を行った。作成された養育態度認知尺度は父親尺度（民主的態度、支持的態度、受容的態度、介入的態度）、母親尺度（民主的態度、受容的態度、情緒安定的態度、介入的態度）の各4下位尺度からなるものであった。この尺度と自我同一性地位尺度とによって検討を行った結果、男女大学生では親の認知に性差があり、さらに父と母の認知にも相違がみられた。自我同一性地位の相違によっても親の認知との関連に種々の相違があることが判明した。

キーワード：青年期・自我同一性・親子関係・親の養育態度の認知・尺度作成

---

\* 追手門学院大学人間学部

\*\* 大手前女子短期大学

## はじめに

青年期における基本的な発達特徴には、第二性徴、自己意識の形成、対人関係の変化等があるが、これらの変化はそれぞれが単独に発現するのではなく、相互に関連しあいながら形成発達していくものである。対人関係の中でも、親子関係は青年期になると、児童期までとはかなり様相を異にするようになる。親子関係、特に母子関係は言うまでもなく受胎時から始まり、乳児期、幼児期には親から子どもへの一方的な養育、保護の関係であるが、児童期を経て、青年期になると親と子との関係についての変化がまず反抗と言う形で現れ、第二次反抗期と呼ばれるようになる。青年期の移行とともに徐々に反抗から直接的な関わり拒否を経て、両親に対する見方が客観的にできるようになり、青年期の終期には精神的な自立を遂げることによって、いわゆる心理的離乳ができたことになるといわれている。

この親子関係は、父親と母親とでは関係のあり方が異なるとともに、子どもの性別によっても異なることはいうまでもない。また、児童期までは親の養育態度が子どものパーソナリティ形成に直接的な影響をあたえることは、ボルビー、サイモンズ、シェフアーらによって立証されるとともに、理論的にも確立されているが、青年期における親子関係については、理論的に立証されているとはいえないのが現状である。

青年期の親子関係についての研究を展望すると、親から子への直接的な働きかけによるパーソナリティ形成への影響とともに、親の行動や考え方を青年がどのように認知するかということが、価値観、生活感情をはじめ社会的態度やイデオロギーの形成その他をも含んでパーソナリティの変容に非常に大きな影響をもっているものといえる。

宮下(1991)は、青年におけるナルシズム(自己愛)的傾向と親の養育態度・家庭の雰囲気との関係について検討したが、この研究の中で、親の養育態度認知は父母で項目内容に多少のズレはあるが、「情緒的支持・受容」「情緒的不安定」「支配・介入」の3側面があることを因子分析によって導きだした。また、小野寺(1993)は、日米の親子関係の比較における研究のために父親・母親の養育態度を「情緒的結合尺度」「統制尺度」「愛着尺度」の3側面で捉えた。さらに、親の養育態度が青年のパーソナリティにどのような影響を与えるかについて、伊藤(1980;1995)は女子青年の性役割観および職業選択との関連から検討を行い、娘の職経歴選択には父母の性別化観や期待、および現在の養育態度に対する認知が密接に関係していることを明らかにした。また、小川・田中(1979;1980)は親の養育態度や期待が男女ともに職業的社会化特に職業の継承性に大きな影響をすることを実証している。

これらの研究で使用された親子関係を測定する尺度は、形容詞対から成るもの(宮下)、質問文によるもの(伊藤)などとそれぞれの研究で異なり、いずれにも長短あり、どのような方法

がよりよいとも言えないのが現状である。

西平（1990）は、親と子の関係はその形態や機能が親子の年齢変化とともに、親から子への養育・保護に始まり、親が老齢になると子どもから親の世話という逆の関係になるまで一生涯を通じて続く関係であるということを生育誌心理学的に明らかにし、第二次心理的離乳から第五次心理的離乳までであると提唱している。親子のこのように変化する関係を心理的離乳と称することが現状に合致しているか否かは議論の余地があるところである。しかし、親子関係が誕生に始まり、一方の死によって終結するまで質的にも形態的にも機能的にも変化しながら続いていくことは異論のないところである。

我々は、父親および母親について「肯定的な認知」であるか「否定的な認知」であるかという側面から親に対する青年の態度を捉え、結婚観をはじめとして、種々の生活感情との関連を検討した結果、男女ともに両親についての認知が影響することを示したが、特に女子青年が父親をどのように見ているかが生活感情の形成に大きな影響をもっていることが顕著に示された。さらに、大学生148名を対象にして、「あなたは、親との関係をどのように考えていますか」という質問に自由記述法で回答を求めた（井上，1994）。その結果を大別すると、おおまかに4群に分けることができた。すなわち、親への全面依存的態度群、心理的な反抗群、無関心・冷淡群、心理的自立群である。この結果から、青年期後期に位置づけられる大学生においても、児童期までの親子関係の様態とみなされていた全面的な依存群の占める割合が多いこと、無関心・冷淡群と名付けた群の記述の多くは関わり拒否的であることなど、現代青年の親との関係のあり方を特徴的に示しているものといえる。このような親子関係のあり方や親に対しての認知は、青年期の発達課題である自我同一性の形成にも大きな関連があるものと思われる。

青年期における自我同一性と価値観形成との関連についてはすでに検討を行った（1995）が、その結果からも先述の研究結果からも自我同一性の形成に対して、親の養育態度に対する認知が大きな関連をもっていることは予測に難くないところである。Marcia, J.E. (1993) は、1964年に自我同一性地位についての研究を発表してから今日まで25年間に行われた300以上の関連研究を展望しながら、同一性地位のパーソナリティ特性との関連についての検討をおこなった。その著書の中で、青年期中期から後期における発達のな特徴として、同一性地位に関連しての家族研究については、縦断的研究は行われていないが、過去および現在の家族との関係に対する認知あるいは直接的に現在の関係の測定が研究されていること、さらに家族関係と自我同一性地位との適切な因果的関係を述べることはむずかしいとの指摘を行っている。さらに、両親についての研究において、同一性形成に対して父親の役割が大きな関連をもっていること、および両親の離婚と不在は不明瞭ではあるが影響をすることは注目すべき特徴であり、特にBary (1978), Enright et al. (1980), Kendis & Tan (1978) と LaVoie (1976) らの研究で示されているように、父親の変数は男女双方に対して自我同一性の形成に非常に重要であるこ

とを指摘している。

そこで、本研究は、まず、親の養育態度認知尺度を作成し、その尺度を使用して、青年期における自我同一性の形成に親の養育態度の認知がどのように関連しているかを解明することを目的とする。

## 1. 研究方法

### (1) 調査用紙

青年期における親の養育態度に対する認知について測定するため、宮下が使用した30対の形容詞対（項目内容は付表参照のこと）を予備尺度として調査用紙(1)、およびわれわれが作成した自我同一性地位尺度を調査用紙(2)としてこの2つの調査用紙を同時に実施した。なお、親の養育態度認知尺度についての反応は7段階評定尺度で、自我同一性地位尺度は5段階評定尺度で行なうようになっている。

### (2) 調査の実施

調査は、1995年5月に大阪府下の4年制大学在籍中の大学生男子146名、女子162名を対象にして心理学の講義時間に集団で一斉に実施した。回答に要した時間は約20分であった。回収した資料の内、回答に脱落のあるものを除き、分析に使用した有効資料は男子139名、女子155名、計294名であった。有効資料の男子は18歳から24歳の間に分布しており平均年齢は19.4歳であり、1年生88名(63.3%) 2年生23名(16.5%) 3年生25名(18.0%) 4年生3名(2.2%)であった。女子は18歳から22歳までで平均年齢19.4歳であり、1年生64名(41.3%) 2年生30名(19.4%) 3年生54名(34.8%) 4年生7名(4.5%)であったが、分析については年齢、学年および所属学部、学科は問わない。

### (3) 親の養育態度認知尺度の項目選定

父親および母親の養育態度認知尺度についての男女被検者294名の回答について、30項目の形容詞対の左から右に順に1点から7点を付与して各項目の反応の点数化を行い、項目間の相関についてピアソンの相関係数を算出し、主成分法による因子分析を行い、バリマックス回転をした。因子数の決定は父親、母親ともに累積寄与率、 $h^2$ および因子の解釈を参照しながら6因子から順に因子数を減少していき、もっとも解釈の適切におこなえると思われる4因子解を採択した。各因子の採択の基準については、男子では因子負荷量.48以上、女子では.46以上とした。その結果が表1、2に示されている。

父親の尺度についてまず検討していく。第1因子は、4. 意欲的な、17\*. いい加減な、

8＊．無関心な，15．安定した，24＊．ばらばらな，25．平等な，11．支持的な，16＊．無視する，3．肯定的な，18．公平な(以下＊ 逆転項目)の10項目からなっており，「民主的態度」と命名した。第1因子の $\alpha$ 係数は.83であった。第2因子は，20＊．拘束的な，27．＊保護的な，2．開放的な，1．自立性を尊重する，28＊．統制的な，10．個性を尊重するの6項目からなっており，「支持的態度」と命名した。 $\alpha$ 係数は.67であった。第3因子は，5．でじゃばりな，6．口うるさい，23．感情的な，7．いらいらした，29．しっこの5項目であり，「介入的態度」と命名した。 $\alpha$ 係数は.63であった。第4因子は，22＊．厳しい，21＊．意地の悪い，19．やさしい，26．にこやかな，12．子供中心の，30＊．拒否的な6項目でなっており，「受容的態度」と命名した。 $\alpha$ 係数は.65であった。項目9，13，14はいずれの因子についても負荷量が小さかったため削除した。

次に，母親の尺度について検討する。母親の第1因子は，2．開放的な，10．個性を尊重する，3．肯定的な，20＊．拘束的な，11．支持的な，9．信頼する，30＊．拒否的な8項目

表1 父親の養育態度認知尺度下位尺度因子分析結果

| 項目番号  | FACTOR1 | FACTOR2 | FACTOR3 | FACTOR4 | h <sup>2</sup> |
|-------|---------|---------|---------|---------|----------------|
| 4     | -.6924  | -.2547  | .2283   | -.1382  | .6156          |
| 17    | .6843   | -.1652  | .1951   | .0390   | .5351          |
| 8     | .6769   | -.1029  | -.2123  | .1848   | .5481          |
| 15    | -.6311  | -.0276  | -.3475  | -.0873  | .5275          |
| 24    | .5845   | .1522   | .4569   | .0477   | .5758          |
| 25    | -.5793  | -.1637  | -.1697  | -.3238  | .4960          |
| 11    | -.5343  | -.3461  | .0891   | -.2123  | .4582          |
| 16    | .5311   | -.0677  | .0284   | .3552   | .4136          |
| 3     | -.5242  | -.4446  | -.2285  | -.3242  | .6297          |
| 18    | -.5171  | -.1934  | -.2715  | -.3726  | .5174          |
| 20    | .0259   | .7240   | .2324   | .2450   | .6390          |
| 27    | -.1712  | .7058   | .1667   | -.0685  | .5606          |
| 2     | -.3025  | -.6984  | .0473   | -.2678  | .6533          |
| 1     | -.3812  | -.6340  | -.1214  | .0402   | .5636          |
| 28    | -.2530  | .5603   | .1886   | .3104   | .5098          |
| 10    | -.4735  | -.5381  | -.2183  | -.1727  | .5909          |
| 5     | .0131   | .0355   | .7927   | .0532   | .6326          |
| 6     | -.0763  | .2689   | .7291   | .1341   | .5277          |
| 23    | .3339   | .1455   | .6325   | .0896   | .4954          |
| 7     | .2290   | .1455   | .6099   | .2843   | .5264          |
| 29    | .1236   | .4045   | .5555   | .0896   | .4954          |
| 22    | -.2007  | .2191   | .1924   | .6729   | .5781          |
| 21    | .2783   | .1506   | .1860   | .6724   | .5869          |
| 19    | -.4453  | -.0604  | -.1375  | -.6451  | .6370          |
| 26    | -.3590  | -.1757  | .1682   | -.6109  | .5612          |
| 12    | -.3212  | -.1205  | -.0930  | -.4944  | .3707          |
| 30    | -.3212  | .2165   | .2029   | .4835   | .4746          |
| %     | 17.5701 | 12.3580 | 11.6081 | 10.9695 |                |
| 累積寄与率 | 17.5701 | 29.9281 | 41.5362 | 52.5057 |                |

であり、「民主的態度」と命名した。 $\alpha$  係数は.79であった。第2因子は、26. にこやかな、16\*. 無視する、19. やさしい、8\*. 無関心な、12. 子供中心の、4. 意欲的な、27. 保護的な7因子から構成されており、「受容的態度」と命名した。 $\alpha$  係数は.60であった。第3因子は、24\*. ばらばらな、23\*. 感情的な、15. 安定した、7\*. いらいらしたの4項目からなっており、「情緒安定的態度」と命名した。 $\alpha$  係数は.62であった。第4因子は、13. 指示的な、22. 厳しい、6. 口うるさい、5. でしゃばりな、29. しっこい、28. 統制的なの6項目から成り、「介入的態度」と命名した。 $\alpha$  係数は.63であった。14, 17, 18, 21, 25の5項目は因子採択の基準にいずれの因子負荷量も達していないので削除項目とした。

表2 母親の養育態度認知尺度下位尺度因子分析結果

| 項目番号  | FACTOR1 | FACTOR2 | FACTOR3 | FACTOR4 | $h^2$ |
|-------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 2     | -.7944  | -.1246  | -.1066  | -.1726  | .6883 |
| 1     | -.7592  | -.0639  | -.2857  | -.0496  | .6646 |
| 10    | -.7451  | -.3649  | -.2031  | -.1139  | .7336 |
| 3     | -.7265  | -.2453  | -.2440  | -.1638  | .6744 |
| 20    | .6354   | -.0179  | .1343   | .3654   | .5555 |
| 11    | -.5768  | -.4848  | -.1268  | -.0028  | .4582 |
| 9     | -.5683  | -.4538  | -.1232  | -.1139  | .5570 |
| 30    | .5016   | .4596   | .1181   | .2267   | .5282 |
| 26    | -.3483  | -.7242  | .0916   | -.1403  | .6654 |
| 16    | .1767   | .6947   | .1808   | .0904   | .5547 |
| 19    | -.2698  | -.6889  | -.1526  | -.2238  | .6207 |
| 8     | -.0416  | .6706   | .1298   | -.1811  | .5010 |
| 12    | -.2761  | -.5288  | -.1825  | -.1018  | .3995 |
| 4     | -.3975  | -.4829  | -.1719  | .2906   | .5052 |
| 27    | .4408   | -.4743  | .0966   | .2351   | .4838 |
| 24    | .3301   | .1987   | .7470   | .0393   | .7081 |
| 23    | .1253   | -.0375  | .7406   | .1864   | .6004 |
| 15    | -.3132  | -.2790  | -.6087  | -.0500  | .5490 |
| 7     | .2267   | .2442   | .5807   | .4002   | .6085 |
| 13    | .1952   | .0140   | .0183   | .6694   | .4867 |
| 22    | .1309   | .2833   | -.0550  | .6651   | .5428 |
| 6     | .0946   | -.0471  | .5081   | .6312   | .6678 |
| 5     | -.0078  | -.1710  | .3498   | .6114   | .5052 |
| 29    | .3686   | .1221   | .4141   | .4755   | .5483 |
| 28    | .3969   | -.0964  | -.2192  | .4640   | .4301 |
| %     | 18.0238 | 15.5500 | 11.4932 | 10.8440 |       |
| 累積寄与率 | 18.0238 | 33.5739 | 45.0671 | 55.9111 |       |

これらの結果から、養育態度認知についての父親の尺度は、4下位尺度で構成することとし、第1尺度「民主的態度」10項目、第2尺度「支持的態度」6項目、第3尺度「受容的態度」5項目、第4尺度「介入的態度」6項目、計27項目とした。母親の尺度は、第1尺度「民主的態度」8項目、第2尺度「受容的態度」7項目、第3尺度「情緒安定的態度」4項目、第4尺度「介入的態度」6項目、合計25項目で構成した。なお、父親の尺度と母親の尺度の下位尺度を内容的に斉合させるため、父親の因子分析結果の第3因子と第4因子を入れ換えた。これら下

位尺度の信頼性（内的一貫性）については、非常に高いとはいえないが、一応保証されていると見なすことができる。そこで、作成した父親および母親の態度認知尺度を使用して研究を行うこととする。

## 2. 結果と考察

### (1) 両親の養育態度の認知について

男女大学生の両親の養育態度について検討する。

表1, 2に示されているように、父親と母親についての認知は項目内容および構成尺度を検討すると完全に一致しているわけではない。父親の態度に対しては、支持的態度が下位尺度の一つを構成しているが、母親については情緒安定的態度が下位尺度を構成している。また、民主的態度、受容的態度、介入的態度と同じ尺度名にしたが、項目内容についても多少の相違がある。これは、大学生の父親と母親に対する認知の差を示しているものであるといえるが、男女を込みにした結果であるため詳細な検討をすることはできない。

そこで男女の違いを考慮しながら、親についての認知について検討してみよう。

表3, 4は、父親と母親の認知についての各尺度の男女別の平均値、SDおよび性差の結果を示している。この結果から、父親の「受容的態度」および母親の「民主的態度」については、男子より女子の方が強く感じており統計的に有意な差であった。その他の尺度については男女に差はみられなかった。

表3 男女大学生の父親尺度下位尺度 平均値・標準偏差および性差

|     | 男子 (n=139) |      | 女子 (n=155) |       | t       |
|-----|------------|------|------------|-------|---------|
|     | 平均値        | SD   | 平均値        | SD    |         |
| 尺度1 | 44.97      | 8.76 | 45.59      | 10.45 | .548    |
| 尺度2 | 26.42      | 5.96 | 25.83      | 6.65  | .797    |
| 尺度3 | 25.31      | 5.33 | 27.05      | 6.39  | 2.539 * |
| 尺度4 | 25.21      | 6.07 | 25.04      | 5.48  | .241    |

\* :  $p < .05$

表4 男女大学生の母親尺度下位尺度 平均値・標準偏差および性差

|     | 男子 (n=139) |      | 女子 (n=155) |      | t         |
|-----|------------|------|------------|------|-----------|
|     | 平均値        | SD   | 平均値        | SD   |           |
| 尺度1 | 36.34      | 8.88 | 40.22      | 8.94 | 3.715 *** |
| 尺度2 | 34.34      | 6.46 | 35.41      | 5.76 | 1.503     |
| 尺度3 | 14.90      | 4.51 | 15.43      | 4.48 | .999      |
| 尺度4 | 26.58      | 5.31 | 26.07      | 5.44 | .810      |

\*\*\* :  $p < .001$

表5, 6は男子の, 表8, 9は女子の父親及び母親の認知尺度の下位尺度間の相関を示している。表5から, 父親の4下位尺度間についてみると, 男女ともに尺度1, 2, 3の間にはそれぞれ正の有意な相関が示され, 尺度4と第2尺度, 第3尺度間には負の有意な相関が示された。母親については, 男子は第2尺度と第4尺度の間に有意な相関を示さなかったが, 第1, 2, 3尺度間では有意な正の相関を示した。女子では父親については第1, 2, 3尺度間にそれぞれ正の相関がみられ, 第4尺度と第1尺度, 第3尺度間には負の相関がみられたが, 第2尺度との間には関連がみられなかった。この結果から, 男子は父親の介入的態度と民主的態度とは関連させて認知していず, また男女ともに母親の受容的態度と介入的態度は別個のものとして認知していることが明らかになった。

表5 男子大学生父親の養育態度認知尺度下位尺度間相関 (n=139)

|     | 尺度1       | 尺度2        | 尺度3       | 尺度4 |
|-----|-----------|------------|-----------|-----|
| 尺度1 |           |            |           |     |
| 尺度2 | .3848 *** |            |           |     |
| 尺度3 | .5692 *** | .4373 ***  |           |     |
| 尺度4 | -.1167    | -.3010 *** | -.2646 ** |     |

\*\* :  $p < .01$ , \*\*\* :  $p < .001$

表6 男子大学生母親の養育態度認知尺度下位尺度間相関 (n=139)

|     | 尺度1        | 尺度2       | 尺度3        | 尺度4 |
|-----|------------|-----------|------------|-----|
| 尺度1 |            |           |            |     |
| 尺度2 | .5815 ***  |           |            |     |
| 尺度3 | .5498 ***  | .3802 *** |            |     |
| 尺度4 | -.4427 *** | -.0960    | -.4064 *** |     |

\*\*\* :  $p < .001$

表8 女子大学生父親の養育態度認知尺度下位尺度間相関 (n=155)

|     | 尺度1        | 尺度2        | 尺度3        | 尺度4 |
|-----|------------|------------|------------|-----|
| 尺度1 |            |            |            |     |
| 尺度2 | .4946 ***  |            |            |     |
| 尺度3 | .6868 ***  | .5468 ***  |            |     |
| 尺度4 | -.3662 *** | -.5105 *** | -.3431 *** |     |

\*\*\* :  $p < .001$

表9 女子大学生母親の養育態度認知尺度下位尺度間相関 (n=155)

|     | 尺度1        | 尺度2       | 尺度3        | 尺度4 |
|-----|------------|-----------|------------|-----|
| 尺度1 |            |           |            |     |
| 尺度2 | .4656 ***  |           |            |     |
| 尺度3 | .5635 ***  | .3833 *** |            |     |
| 尺度4 | -.5240 *** | -.1264    | -.5317 *** |     |

\*\*\* :  $p < .001$

表7と10は、男女それぞれの父親の認知と母親の認知との相関について分析した結果である。

表7 男子大学生父母の養育態度認知尺度下位尺度間相関 (n=139)

|       | 母親尺度1     | 尺度2       | 尺度3      | 尺度4   |
|-------|-----------|-----------|----------|-------|
| 父親尺度1 | .3091 *** | .4184 *** | .2286 ** | .0433 |
| 尺度2   | .3130 **  | .0951     | .1150    | .0259 |
| 尺度3   | .0672     | .2406 **  | .0944    | .1129 |
| 尺度4   | -.1101    | -.1480 *  | .0283    | .0047 |

\* :  $p < .05$ , \*\* :  $p < .01$ , \*\*\* :  $p < .001$

表7から、男子においては、父親尺度の1（民主的態度）と母親尺度の1（民主的態度）、2（受容的態度）、3（情緒安定的態度）との間について、父親尺度2（支持的態度）と母親尺度1（民主的態度）、父親尺度3（受容的態度）と母親尺度2（受容的態度）との間には正の相関が示され、父親尺度4（介入的態度）と母親尺度2（受容的態度）との間には負の相関がみられた。

表10 女子大学生父母の養育態度認知尺度下位尺度間相関 (n=155)

|       | 母親尺度1    | 尺度2     | 尺度3   | 尺度4       |
|-------|----------|---------|-------|-----------|
| 父親尺度1 | .2097 ** | .1601 * | .0410 | -.0592    |
| 尺度2   | .2634 ** | .1161   | .1346 | -.2188 ** |
| 尺度3   | .1891 *  | .1764 * | .0716 | -.1019    |
| 尺度4   | -.0638   | -.1107  | .0279 | .1099     |

\* :  $p < .05$ , \*\* :  $p < .01$ ,

表10の女子の結果においては、父親尺度1（民主的態度）と母親尺度1（民主的態度）、2（受容的態度）との間、父親尺度2（支持的態度）と母親尺度1（民主的態度）、父親尺度の3（受容的態度）と母親尺度の1（民主的態度）、2（受容的態度）との間には正の相関が示されたが、父親尺度2（支持的態度）と母親尺度4（介入的態度）との間には負の相関がみられた。

これらの結果から、男子は、父親について民主的態度、支持的態度、受容的態度について相互に関連づけて認知しており、介入的態度については支持的態度、受容的態度とは相反する態度として認知している。母親については、民主的態度、受容的態度、情緒安定的態度は相互に関連づけて捉えているが、介入的態度は民主的態度および情緒安定的態度とは相反する態度であるが受容的態度とは関係しない態度として認知している。また、父親と母親の態度の関連については、父母の民主的態度と受容的態度については相互に関連づけてとらえ、また父親の支持的態度と母親の民主的態度とは関連させて認知しているが、父親の介入的態度と母親の受容的態度とは逆の関係として認知している。

これらの結果は、男子大学生が父親と母親の態度の認知において相互に関連してとらえているが、その関連の仕方が同様ではないことを示しているものといえる。

一方女子は、父親母親ともに第1尺度、第2尺度、第3尺度の3つは相互に関連づけて認知しており、介入的態度は他の3つの態度とは逆のものとして捉えている。また、父親と母親についての関連は、父親に対する民主的態度、支持的態度、受容的態度と母親の民主的態度とは関連あるものとして認知しており、さらに父親の受容的態度は母親の受容的態度と関連して捉えているが、父親の支持的態度は母親の介入的態度とは逆の関係にあるものとして捉えている。すなわち、女子においては、母親の民主的態度は父親の民主的態度、支持的態度、受容的態度と、母親の受容的態度は父親の民主的態度、受容的態度と関連づけて捉えられているが、母親の介入的態度は父親の支持的態度とは相反するものとして捉えられている。

これらの結果から、父親の受容的態度および母親の民主的態度については、女子の方が男子に比べてより強く感じており、さらに父親の民主的態度については、男子は母親の情緒安定的態度と関連づけているに対して女子は関連させて捉えていないこと、父親の受容的態度を男子は母親の受容的態度とのみ関連づけているのに対して女子は民主的態度及び受容的態度と関連づけていること、父親の介入的態度について、男子は母親の受容的態度と逆のものとして認知しているのに対して女子は母親の態度と関連づけて捉えていないことに男女の認知の差が見いだされた。さらには表としては示さなかったが、男女別に父親および母親の態度の認知についての因子構造の相違を検討した結果から、男女ともに父親と母親に対する認知は、因子構造については類似しているが内容的にはかなりのズレがあることが見いだされた。これらの結果から明らかに両親に対する認知には性別による相違があり、また男女ともに父親と母親に対する認知についても違いがあることが示された。これらの結果のみでは一概には言えないが、女子の方が男子よりも親の態度についての関心を強く示しているものとも考えられる。

## (2) 親の養育態度の認知と自我同一性地位との関連について

始めに述べたように、親の養育態度に対する認知は自我同一性の形成にかなりの影響を及ぼしていることはすでにいくつかの研究で明らかにされている。しかし、これらの研究はほとんどが日本以外の社会で実証されており、日本ではほとんど研究されていないのが現状である。日本社会での親子関係のあり方は、土居の「甘え」についての理論においても明らかにされているように、非常に独自の関係様態であり、当然自我同一性の形成との関連も今までの外国の研究で示されている結果とは異なるものであると予測される。

そこで、親の養育態度の認知と自我同一性地位との関連から、どのように関わっているのか検討してみよう。

表11, 12は男女の親の態度に対する認知と自我同一性の3領域(職業, 価値観, 学業)の探索, 傾倒との相関を示している。

男子学生については、父親を民主的態度であると認知している場合、自我同一性の職業領域

表11 男子大学生親の養育態度と自我同一性地位との相関 (n=139)

|        | 父親尺度    |         |           |        | 母親尺度     |          |          |        |
|--------|---------|---------|-----------|--------|----------|----------|----------|--------|
|        | 尺度 1    | 尺度 2    | 尺度 3      | 尺度 4   | 尺度 1     | 尺度 2     | 尺度 3     | 尺度 4   |
| 職業領域探索 | .1886 * | -.0031  | .1122     | .0874  | .1532    | .2943 ** | .1199    | -.0155 |
| 傾倒     | .1928 * | .1681 * | .2865 *** | -.0376 | .1328    | .1589    | .1087    | -.0125 |
| 価値領域探索 | .0228   | -.0572  | .0059     | -.0264 | .0181    | .1173    | .0063    | .0407  |
| 傾倒     | .1941 * | .1335   | .1862 *   | .0165  | .1753 *  | .1835 *  | .0458    | .0002  |
| 学業領域探索 | .1267   | .0088   | .0165     | .0163  | .1986 *  | .1748 *  | .2672 ** | -.1205 |
| 傾倒     | .1073   | .0435   | -.0004    | -.0571 | .2241 ** | .2407 ** | .1559    | -.0830 |

\* p&lt;.05, \*\* p&lt;.01

表12 女子大学生親の養育態度と自我同一性地位との相関 (n=155)

|        | 父親尺度     |        |        |        | 母親尺度    |        |        |         |
|--------|----------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|
|        | 尺度 1     | 尺度 2   | 尺度 3   | 尺度 4   | 尺度 1    | 尺度 2   | 尺度 3   | 尺度 4    |
| 職業領域探索 | -.0144   | .1322  | -.0146 | -.0827 | .1610 * | -.0137 | -.0209 | .0699   |
| 傾倒     | .0118    | -.0367 | -.0665 | -.0582 | -.0526  | -.0601 | -.0129 | .1779 * |
| 価値領域探索 | -.1726 * | -.0399 | -.1420 | .0034  | -.0528  | .0111  | -.1102 | .1092   |
| 傾倒     | -.0417   | .0313  | .0170  | -.0492 | .0657   | .0410  | .0090  | .0171   |
| 学業領域探索 | .0851    | .0494  | .0488  | -.0389 | .1388   | .1131  | .0533  | .1196   |
| 傾倒     | .0507    | .0236  | .0768  | -.0352 | .0379   | .0113  | -.0060 | .1916 * |

\* : p&lt;.05,

の探索および傾倒, 価値領域の傾倒と正の相関が示され, 支持的態度の認知と職業領域の傾倒との間, 受容的態度の認知と職業領域および価値領域の傾倒との間にも正の相関がみられた。また, 母親については民主的態度と価値領域の傾倒, 学業領域の探索・傾倒と正の相関がみられ, 受容的態度と職業領域の探索, 価値領域の傾倒, 学業領域の探索・傾倒との間および情緒安定的態度と学業領域の探索間にも正の相関がみられた。父母ともに介入的態度は自我同一性の各領域とまったく関連がみられなかった。

女子学生については, 父親の民主的態度は価値領域の探索と負の相関がみられ, また母親の民主的態度は職業領域の探索と正の相関がみられた。さらに母親の介入的態度は職業領域の傾倒および学業領域の傾倒と正の相関を示していた。

これらの結果から, 男子学生にとって父親が民主的態度であると認知していることは, 職業およびこれからの人生について自分自身で探し求めることおよび職業について自己決定ができることに影響をしており, さらに支持的, 受容的態度であるとみていることは職業を選択し決定することに関連がある。父親が受容的態度であるとみていることはまた人生観の決定にも関連しているものといえる。一方, 母親を民主的な態度であると認知している男子は生き方の決定および学業に対する探索および決定に関連がみられ, 受容的であると認知している場合は職業および学業の探索, 人生観および学業の決定に関連があることが示された。父親, 母親とも

に介入的態度であると認知することは、自我同一性の探索にも傾倒にもなんらの関連も示さなかった。

女子学生にとって、父親が民主的態度であると認知することは生き方についての探索にマイナスの影響をおよぼし、母親が民主的態度であると認知することは職業の探索と関連がみられ、介入的態度であると認知していることは、職業および学業の傾倒に関連がみられた。

男子学生にとって職業を探し求めることには父親の民主的態度すなわち父親が肯定的で意欲的できちんとしており、安定した態度で一貫しており平等であり、支持的で子供のことを重視し公平であると認知することおよび母親の受容的態度が影響力をもっており、さらに職業についての決定には父親の民主的態度、支持的態度と受容的態度が関連しており、生き方の決定には民主的態度と受容的態度、母親の民主的態度が関連していた。学業領域については父親の態度は関連がみられず、探索には母親の民主的態度、受容的態度、情緒安定的態度が関連しており、決定には母親の民主的態度と受容的態度に関連が示された。

女子の職業領域の探索には母親の民主的態度の認知が関連しており、職業の決定には母親の介入的態度の認知が関連していた。さらに母親の介入的態度は学業の決定とも関連がみられた。この結果から、男子にとっては父親および母親の態度が肯定的な態度であると認知していることは自我同一性の形成にとって種々の関わりがあるが、女子にとっては父親の態度はほとんど関連がみられず、母親の態度についての認知が職業の探索および職業と学業の決定とのみ関連していることが示された。本研究の被検者は共学の4年制大学の1年生が占める割合が多く、しかもほとんどの学生に対する調査実施の時期が5月であったことを考えると、男子は大学への進学について進学動機および大学の選択等に女子とは相違があったのではないと思われる。大学進学時における進学動機および選択についての性差は、学生の実生活調査、あるいはその他の研究等で明らかにされており、女子の方が高校時に専攻分野あるいは大学卒業後の職業についてまで考えた上で進学を決定する傾向が強いといわれていることの反映とも考えられる。また、その決定において男子にとっては両親の影響を多く受けるのに対して、女子は自分自身で決定する態度が強いものと思われる。

表13は自我同一性地位の決定の基準値とそれぞれの地位の人数および男女での4地位の人数比の差について検定した結果である。基準値はそれぞれの平均値とした。この表にも示されているように、職業領域については、男子は未分化なものと達成との割合がほぼ同じであるのに対して、女子は達成が半数以上と多く、男女の比率に相違がみられた。価値領域については、達成が男女ともに約半数を占め、早期完了が15%前後で他の2つの地位が4分の1前後と性差はみられなかった。学業領域については、男女ともに達成地位の占める割合がもっとも多いが男子が47.5%であるのに対して女子は74.2%と非常に多く性差がみられた。職業および価値領域は今後の大学生活を通じて決定していくことになるものであるとも考えられるが、学業領域

の特に男子について拡散というよりはむしろ未決定と考えられる学生が26.6%いることは現在の大学進学についての心理的状态を特徴的に示しているものといえる。

表13 自我同一性地位の基準値および度数、性差

|      |    |     | Diffusion |      | Foreclosure |       | Moratorium |      | Achievement |       | $\chi^2$ |
|------|----|-----|-----------|------|-------------|-------|------------|------|-------------|-------|----------|
|      |    |     | 探索        | 傾倒   | 探索          | 傾倒    | 探索         | 傾倒   | 探索          | 傾倒    |          |
| 職業領域 | 男子 | 分割値 | 8-28      | 8-22 | 8-28        | 23-40 | 29-40      | 8-22 | 29-40       | 23-40 | 12.27 ** |
|      |    | 度数  | 45(32.4%) |      | 15(10.5%)   |       | 27(19.4%)  |      | 52(37.4%)   |       |          |
|      | 女子 | 分割値 | 8-30      | 8-22 | 8-30        | 23-40 | 31-40      | 8-22 | 31-40       | 23-40 |          |
|      |    | 度数  | 25(16.1%) |      | 14( 9.0%)   |       | 35(22.6%)  |      | 81(52.3%)   |       |          |
| 価値領域 | 男子 | 分割値 | 8-24      | 8-26 | 8-24        | 27-40 | 25-40      | 8-26 | 25-40       | 27-40 | 0.92     |
|      |    | 度数  | 31(22.3%) |      | 23(16.5%)   |       | 38(27.3%)  |      | 47(33.8%)   |       |          |
|      | 女子 | 分割値 | 8-31      | 8-23 | 8-31        | 23- 0 | 32-40      | 8-23 | 32-40       | 24-40 |          |
|      |    | 度数  | 37(23.9%) |      | 21(13.5%)   |       | 39(25.2%)  |      | 58(37.4%)   |       |          |
| 学業領域 | 男子 | 分割値 | 8-30      | 8-22 | 8-30        | 23-40 | 31-40      | 8-22 | 31-40       | 23-40 | 28.79 ** |
|      |    | 度数  | 37(26.6%) |      | 14(10.1%)   |       | 22(15.8%)  |      | 66(47.5%)   |       |          |
|      | 女子 | 分割値 | 8-27      | 8-30 | 8-27        | 31-40 | 28-40      | 8-30 | 28-40       | 31-40 |          |
|      |    | 度数  | 13( 8.4%) |      | 17(11.0%)   |       | 10( 6.5%)  |      | 115(74.2%)  |       |          |

\*\* :  $P < 0.01$ 

表14と15は、男子の職業領域における4地位間の父母の態度の認知の差について検定した結果である。父親について民主的態度であると認知しているものは、達成がもっとも高く未分化がもっとも低い有意差はみられなかった。支持的態度では、早期完了がもっとも高くモラトリアムがもっとも低い値であり両者には平均値に有意差がみられたが、4地位間には差は示されなかった。父親の受容的態度については、達成状態にあるものがもっとも高く次いで早期完了であり、未分化とモラトリアムのものがほぼ同じ低い値であり、4地位間に有意差が示された。父親の介入的態度の認知は、早期完了のものがやや低い値であったがほとんど差がみられなかった。母親については早期完了のものと達成状態のものが民主的態度について他の2地位より高い値をしめしているが統計的には有意な差ではない。支持的態度および受容的態度についても4地位間にほとんど差がみられなかった。また、介入的態度についてはモラトリアムの状態のものがやや高い値であるが有意差はなかった。

表14 男子大学生の父親認知下位尺度の自我同一性地位（職業領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion(n=45) |      | Foreclosure(n=15) |      | Moratorium(n=27) |      | Achievement(n=52) |      | F      |
|------|-----------------|------|-------------------|------|------------------|------|-------------------|------|--------|
|      | Mean            | SD   | Mean              | SD   | Mean             | SD   | Mean              | SD   |        |
| 尺度1  | 42.87           | 7.56 | 43.87             | 8.89 | 45.30            | 9.08 | 46.94             | 9.05 | 1.86   |
| 尺度2  | 25.78           | 5.63 | 28.47             | 5.54 | 24.63            | 6.41 | 27.33             | 5.78 | 2.00   |
| 尺度3  | 24.04           | 4.98 | 25.67             | 3.38 | 24.15            | 4.49 | 26.90             | 6.00 | 2.94 * |
| 尺度4  | 25.47           | 6.18 | 22.40             | 5.70 | 25.37            | 5.35 | 25.69             | 6.21 | 1.21   |

> : Bonferroni による多重比較,  $p < .05$  \* :  $p < .05$

表15 男子大学生の母親認知下位尺度の自我同一性地位（職業領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion(n=45) |      | Foreclosure(n=15) |      | Moratorium(n=27) |      | Achievement(n=52) |      | F    |
|------|-----------------|------|-------------------|------|------------------|------|-------------------|------|------|
|      | Mean            | SD   | Mean              | SD   | Mean             | SD   | Mean              | SD   |      |
| 尺度1  | 34.49           | 7.34 | 38.73             | 8.19 | 35.63            | 9.02 | 37.62             | 9.80 | 1.43 |
| 尺度2  | 32.84           | 5.99 | 34.33             | 4.61 | 34.96            | 5.92 | 35.31             | 7.29 | 1.28 |
| 尺度3  | 13.89           | 3.87 | 15.80             | 3.19 | 15.19            | 5.19 | 15.37             | 4.81 | 1.17 |
| 尺度4  | 26.36           | 5.38 | 26.87             | 4.86 | 27.37            | 5.59 | 26.27             | 5.19 | 0.29 |

表16と17は、女子の職業領域についての4地位間の父母の態度認知の差の検定結果である。父親について民主的態度と支持的態度の認知は達成状態のものがやや高く、受容的態度はモラトリアムのものが、また介入的態度は早期完了状態にあるものがやや高く認知しているが、いずれの地位についても統計的には有意な差は示されなかった。一方母親に関しては、民主的態度は達成および未分化のものが高く、早期完了のものが他の3地位のものより有意に低い値を示し、4地位間に有意差が示された。受容的態度については、未分化のものがもっとも高く次いでモラトリアム、達成、早期完了の順に低い値になり、有意差があった。情緒安定的態度については早期完了のものが他の3地位に比較してやや低い有意差はみられず、介入的態度については早期完了の状態のものがもっとも高い値でありモラトリアムのものとは有意差を示したが、4地位間には有意差はみられなかった。

表16 女子大学生の父親認知下位尺度の自我同一性地位（職業領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion(n=25) |      | Foreclosure(n=14) |      | Moratorium(n=35) |       | Achievement(n=81) |       | F    |
|------|-----------------|------|-------------------|------|------------------|-------|-------------------|-------|------|
|      | Mean            | SD   | Mean              | SD   | Mean             | SD    | Mean              | SD    |      |
| 尺度1  | 45.92           | 8.38 | 46.71             | 9.08 | 45.09            | 10.95 | 45.51             | 11.00 | 0.09 |
| 尺度2  | 25.92           | 4.25 | 23.71             | 5.84 | 26.11            | 6.53  | 26.05             | 7.35  | 0.52 |
| 尺度3  | 27.64           | 4.00 | 26.57             | 6.71 | 27.74            | 5.92  | 26.65             | 7.05  | 0.33 |
| 尺度4  | 24.84           | 3.86 | 26.07             | 5.51 | 24.60            | 6.07  | 25.11             | 5.60  | 0.25 |

表17 女子大学生の母親認知下位尺度の自我同一性地位（職業領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion(n=25) |      | Foreclosure(n=14) |      | Moratorium(n=35) |      | Achievement(n=81) |      | F      |
|------|-----------------|------|-------------------|------|------------------|------|-------------------|------|--------|
|      | Mean            | SD   | Mean              | SD   | Mean             | SD   | Mean              | SD   |        |
| 尺度1  | 41.68           | 5.90 | > 33.21           | 9.61 | < 40.09          | 9.45 | 41.04             | 8.83 | 3.45 * |
| 尺度2  | 37.36           | 4.78 | > 31.93           | 7.53 | < 35.66          | 5.48 | 35.31             | 5.51 | 2.77 * |
| 尺度3  | 15.36           | 3.76 | 14.43             | 4.91 | 15.63            | 4.39 | 15.53             | 4.62 | 0.67   |
| 尺度4  | 24.84           | 4.05 | 28.14             | 5.03 | > 24.69          | 5.17 | 26.28             | 5.77 | 2.23   |

> : Bonferroni による多重比較,  $p < .05$  \* :  $p < .05$

これらの結果から、職業領域における同一性地位に関して、男子では特に達成状態のものは父親の受容的態度を強く認知しているが、母親については4地位間に養育態度認知の差がみられなかった。女子では、父親の態度の認知には4地位間に差がみられなかったが、母親については早期完了のものは民主的態度、受容的態度の認知が有意に低く、達成状態のものと未分化のものは民主的態度と受容的態度について高い認知を示していた。また、母親の介入的態度は早期完了のものがもっとも高く認知しており、女子にとって同一性地位の職業領域の達成状況によって母親の認知にかなりの差があることが明らかにされた。

自我同一性の価値領域は、内容的には人生についての展望（人生観）あるいは生き方に対する意識のことであり、表18、19は男子学生の4つの同一性地位での父母に対する認知の相違について検討した結果である。

表18 男子大学生の父親認知下位尺度の自我同一性地位（価値領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion(n=31) |      | Foreclosure(n=23) |      | Moratorium(n=38) |      | Achievement(n=47) |      | F    |
|------|-----------------|------|-------------------|------|------------------|------|-------------------|------|------|
|      | Mean            | SD   | Mean              | SD   | Mean             | SD   | Mean              | SD   |      |
| 尺度1  | 43.74           | 7.37 | 45.57             | 7.16 | 42.87            | 9.33 | < 47.19           | 9.27 | 2.00 |
| 尺度2  | 27.13           | 4.78 | 26.87             | 5.07 | 24.74            | 6.63 | 27.11             | 6.23 | 1.41 |
| 尺度3  | 24.81           | 5.26 | 25.70             | 3.09 | 24.66            | 4.95 | 25.98             | 6.34 | 0.56 |
| 尺度4  | 25.03           | 5.95 | 24.48             | 5.50 | 25.74            | 5.72 | 25.23             | 5.87 | 0.21 |

> : Bonferroni による多重比較,  $p < .05$

表19 男子大学生の母親認知下位尺度の自我同一性地位（価値領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion(n=31) |      | Foreclosure(n=23) |      | Moratorium(n=38) |      | Achievement(n=47) |      | F    |
|------|-----------------|------|-------------------|------|------------------|------|-------------------|------|------|
|      | Mean            | SD   | Mean              | SD   | Mean             | SD   | Mean              | SD   |      |
| 尺度1  | 35.19           | 7.72 | 37.04             | 7.56 | 34.58            | 9.66 | 38.17             | 9.14 | 1.39 |
| 尺度2  | 32.91           | 6.11 | 34.91             | 4.10 | 33.58            | 7.39 | 35.77             | 6.44 | 1.70 |
| 尺度3  | 14.16           | 3.32 | 16.39             | 4.44 | 14.42            | 4.73 | 15.04             | 4.85 | 1.27 |
| 尺度4  | 26.46           | 5.31 | 26.00             | 4.66 | 27.11            | 5.78 | 26.51             | 4.92 | 0.22 |

男子学生について多重比較の結果では達成状態にあるものが父親について民主的態度の認知で他の地位に比較して有意に高いが、4地位間での検定では差は示されなかった。数値的にみると、支持的態度についてはモラトリウムのものが他より低い数値であり、受容的態度と介入的態度については4群間にほとんど差がみられなかった。母親についての認知では、民主的態度および支持的態度については達成地位のものがやや高い数値を示し、モラトリウムのものが低い数値であったが、4群間に統計的には差はみられなかった。受容的態度については早期完了群がやや高い数値であり、介入的態度についてはモラトリウム群がやや高い認知を示したが、いずれの態度についても4地位間に統計的に有意な差はみられなかった。

表20、21は女子学生の結果である。父親についての民主的態度および受容的態度の認知は未

分化群がもっとも高くモラトリアム群がもっとも低い数値を示している。また、支持的態度と介入的態度については4地位間に数値的にほとんど差がなく、さらに4態度ともに4地位間に統計的には有意差は示されなかった。母親については民主的態度と情緒安定的態度の認知では早期完了がやや高い数値であり、受容的態度については達成群がやや低い数値であり、介入的態度についてはほとんど差がみられなかったが、いずれの態度についても統計的には有意差は示されなかった。

表20 女子大学生の父親認知下位尺度の自我同一性地位（価値領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion (n=37) |      | Foreclosure (n=21) |      | Moratorium (n=39) |       | Achievement (n=58) |       | F    |
|------|------------------|------|--------------------|------|-------------------|-------|--------------------|-------|------|
|      | Mean             | SD   | Mean               | SD   | Mean              | SD    | Mean               | SD    |      |
| 尺度1  | 49.14            | 8.90 | 44.86              | 6.56 | 43.49             | 10.54 | 45.00              | 11.81 | 2.07 |
| 尺度2  | 26.08            | 4.77 | 25.86              | 6.29 | 26.28             | 6.88  | 25.36              | 7.57  | 0.17 |
| 尺度3  | 28.51            | 4.20 | 26.62              | 6.26 | 26.49             | 7.27  | 26.66              | 6.87  | 0.85 |
| 尺度4  | 25.05            | 5.20 | 25.33              | 5.22 | 24.62             | 5.90  | 25.21              | 5.43  | 0.11 |

表21 女子大学生の母親認知下位尺度の自我同一性地位（価値領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion (n=37) |      | Foreclosure (n=21) |      | Moratorium (n=39) |      | Achievement (n=35) |      | F    |
|------|------------------|------|--------------------|------|-------------------|------|--------------------|------|------|
|      | Mean             | SD   | Mean               | SD   | Mean              | SD   | Mean               | SD   |      |
| 尺度1  | 39.22            | 9.17 | 41.62              | 9.13 | 39.74             | 9.77 | 40.67              | 8.00 | 0.41 |
| 尺度2  | 35.03            | 6.16 | 36.29              | 5.35 | 36.03             | 6.41 | 34.93              | 5.06 | 0.49 |
| 尺度3  | 15.73            | 4.61 | 16.43              | 3.85 | 15.26             | 4.21 | 14.98              | 4.71 | 0.61 |
| 尺度4  | 25.76            | 5.72 | 25.62              | 5.05 | 26.36             | 4.90 | 26.22              | 5.72 | 0.14 |

自我同一性地位の価値領域については、男女ともに達成状態にあるということは必ずしも精神的自立をはたして両親と対等の立場で客観的に認知するようになっていることを意味しているわけではなく、特にこれからの生き方については両親の存在が大きな影響力をもっているものと考えられる。また母親を介入的な態度であるとみているのは男女ともにモラトリアム状態にあるものが高いことがわずかに示されていることから、自分自身で生き方について悩み探している場合には、親の関わりがわずらわしいものと感じられることがあるようである。しかし、いずれにしても価値領域については親の態度をどのように認知しているかにほとんど差がないのが現状である。

自我同一性の学業領域については、大学生は入学時に学部、学科を選択するためにある程度自分自身で考え決定をしているものと思われてきた。表22、23は男子大学生の学業領域についての同一性地位と親の態度の認知の結果である。

表22 男子大学生の父親認知下位尺度の自我同一性地位（学業領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion(n=37) |      | Foreclosure(n=14) |      | Moratorium(n=22) |      | Achievement(n=66) |      | F    |
|------|-----------------|------|-------------------|------|------------------|------|-------------------|------|------|
|      | Mean            | SD   | Mean              | SD   | Mean             | SD   | Mean              | SD   |      |
| 尺度1  | 44.57           | 8.00 | 45.57             | 8.75 | 44.05            | 7.34 | 45.42             | 9.54 | 0.17 |
| 尺度2  | 25.87           | 5.22 | 29.00             | 5.81 | 26.36            | 4.38 | 26.21             | 6.67 | 1.00 |
| 尺度3  | 25.38           | 4.54 | 25.21             | 5.54 | 25.36            | 4.56 | 25.27             | 5.89 | 0.01 |
| 尺度4  | 24.89           | 6.00 | 26.00             | 5.88 | 24.91            | 6.13 | 25.30             | 6.11 | 0.13 |

表23 男子大学生の母親認知下位尺度の自我同一性地位（学業領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion(n=37) |      | Foreclosure(n=14) |      | Moratorium(n=22) |      | Achievement(n=66) |      | F    |
|------|-----------------|------|-------------------|------|------------------|------|-------------------|------|------|
|      | Mean            | SD   | Mean              | SD   | Mean             | SD   | Mean              | SD   |      |
| 尺度1  | 34.54           | 8.73 | 35.14             | 7.54 | 34.36            | 7.35 | 38.26             | 9.28 | 2.01 |
| 尺度2  | 32.92           | 6.24 | 35.64             | 5.31 | 34.14            | 7.08 | 34.92             | 5.51 | 0.97 |
| 尺度3  | 13.97           | 4.00 | 13.21             | 4.23 | 15.05            | 4.00 | 15.73             | 4.80 | 1.95 |
| 尺度4  | 27.51           | 5.59 | 27.79             | 5.20 | 26.05            | 4.27 | 25.97             | 5.37 | 0.98 |

男子学生については早期完了のものが父親の支持的態度の認知が他に比較して数値的に高いこと以外には父親の民主的、受容的介入的態度ともに4地位間にほとんど差がみられず、統計的には4態度ともに有意差はみられなかった。母親については民主的態度の認知では達成地位にあるものがやや高い数値を示しており、受容的態度については未分化のものが低い数値を、情緒安定的態度については未分化と早期完了のものが低い数値を示し、介入的態度については早期完了のものが高い数値を示したが、統計的には4態度ともに4地位間に有意な差はみられなかった。学業における早期完了の場合、父親が支持的小および介入的態度で関わっていたものと考えることがむしろ自然であり、また、学業について自分自身での決定をしているものは母親が情緒安定的で民主的態度であることも事実の反映と考えられる。

女子についての結果が表24、25に示されている。

表24 女子大学生の父親認知下位尺度の自我同一性地位（学業領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion(n=13) |      | Foreclosure(n=17) |      | Moratorium(n=10) |      | Achievement(n=115) |       | F    |
|------|-----------------|------|-------------------|------|------------------|------|--------------------|-------|------|
|      | Mean            | SD   | Mean              | SD   | Mean             | SD   | Mean               | SD    |      |
| 尺度1  | 46.31           | 7.98 | 41.24             | 9.40 | 47.00            | 8.11 | 46.03              | 10.86 | 1.13 |
| 尺度2  | 26.69           | 6.96 | 24.06             | 6.90 | 26.20            | 5.04 | 25.97              | 6.66  | 0.49 |
| 尺度3  | 25.54           | 5.50 | 25.71             | 7.55 | 28.10            | 6.09 | 27.33              | 6.27  | 0.65 |
| 尺度4  | 24.46           | 4.96 | 27.41             | 5.98 | > 22.70          | 6.00 | 24.98              | 5.28  | 1.74 |

> : Bonferroni による多重比較,  $p < .05$

表25 女子大学生の母親認知下位尺度の自我同一性地位（学業領域）による分散分析結果

| 下位尺度 | Diffusion(n=13) |      | Foreclosure(n=17) |      | Moratorium(n=10) |      | Achievement(n=115) |      | F    |
|------|-----------------|------|-------------------|------|------------------|------|--------------------|------|------|
|      | Mean            | SD   | Mean              | SD   | Mean             | SD   | Mean               | SD   |      |
| 尺度1  | 39.46           | 9.48 | 38.29             | 9.82 | 38.60            | 6.38 | 40.73              | 8.88 | 0.52 |
| 尺度2  | 34.62           | 4.73 | 33.29             | 6.62 | 35.00            | 5.06 | 35.85              | 5.70 | 1.09 |
| 尺度3  | 15.39           | 3.89 | 14.06             | 5.27 | 13.70            | 3.35 | 15.78              | 4.44 | 1.26 |
| 尺度4  | 22.54           | 3.97 | 26.41             | 5.33 | 26.40            | 4.72 | 26.37              | 5.52 | 2.01 |

父親について早期完了のものは民主的態度、支持的態度の認知が他に比べて数値的には低く介入的態様の認知が高いが、情緒安定的態様についてはモラトリウムおよび達成状態のものが数値的には他の2地位より高い。しかし、父親の4態度ともに同一性4地位間に統計的には有意な差はみられなかった。母親の認知について民主的態様では達成群がわずかに高い数値であるが、受容的態様については4群間にほとんど差がみられず、情緒安定的態様についてはモラトリウム群が低い数値を示し、介入的態様については未分化群が低い数値を示した。しかし、母親の4態度の認知について、4地位間に統計的には有意差は見いだされなかった。女子にとって父親が介入的支配的態様であるとき、そのまま父親の意志にそって学業の決定を行っていることが考えられ、またモラトリウム状態にあつて探索中であるものは父親の態度を民主的で支持的で受容的であり、介入的態様が少なくと認知していることから、女子学生にとって父親の存在は大学生という現在の状況の中で学業の決定のために重要な役割をはたしているものと思われる。母親については達成状態にあるものがもっとも民主的で受容的で情緒安定的であると認知しており、さらに未分化の状態のものは他の群に比べて母親を介入的と認知する程度が低いことから考えると、母親と女子学生との関係は同性であることとも関連してもっとも身近な支持者的存在であると思われる。

### 3. 総括的討議

大学生における両親の養育態度に対する認知は、父親については民主的態様、支持的態様、受容的態様、介入的態様の4つがあり、母親については民主的態様、受容的態様、情緒安定的態様、介入的態様の4つがあることが明らかになった。

父母の4態度についての認知は、男女大学生で相違がみられ、女子のほうが父親の受容的態様および母親の民主的態様を強く感じていることが示された。さらに、男女ともに父親の民主的態様、支持的態様、受容的態様は相互に関連させて認知しており、介入的態様は男子では支持的態様および受容的態様と、また女子では他の3態度とは相反する態度として認知している。また、母親については、男子は民主的態様、受容的態様、情緒安定的態様は相互に関連づけて

認知しているが、介入的態度は民主的態度、情緒安定的態度とは相反する態度として認知している。女子は父親と同様に介入的態度は他の3態度と相反する態度として認知していることが示された。父親と母親の態度間の関連について、男子学生は父親の民主的態度については母親の民主的態度、受容的態度、情緒安定的態度と関連づけて認知しているのに対して、女子は民主的態度、受容的態度と関連づけていること、父親の受容的態度を男子は母親の民主的態度とのみ関連させているのに対して、女子は母親の民主的態度、受容的態度と関連させていること、介入的態度について男子は母親の受容的態度と相反するものとして認知しているのに対して、女子はいずれの態度とも関連させていないことなど、父母に対する認知にかなりの相違が認められるとともに、認知についての性差も認められた。

青年の自我同一性の形成に対する両親の養育態度の認知の関係については、同一性の達成状況がいずれの領域についても個人によって違いがあり、同一性の達成状況によって両親の養育態度の認知との関連にも当然相違がみられるため、要約して論じることは難しいが、達成状態にあるものは一般的にみて両親を民主的態度と認知している傾向にあり、未分化な群は介入的態度の認知が低い傾向にあった。早期完了群は、父親の支持的態度を比較的高く認知しているとみることができ、学業領域で特にこのような傾向が顕著にみられた。しかし、このような傾向はその領域および性別によって相違があり、一概には言えるものではない。

本研究から、自我同一性地位と両親の養育態度の認知との間には非常に大きな関わりがあることは示すことができたものといえる。しかし、本研究は相関研究であるため、どのような因果的関連をしており、どのような側面に影響があるのかについては言及することはできなかった。

さらに、両親の養育態度そのものではなく、それについての認知であるという間接的關係であることも結果を結論づけるための短所となっているものと考えられる。

青年期のパーソナリティ形成についてさらに解明するためには、両親の養育態度あるいはその認知と精神的自立との関係、性役割との関連、価値観形成への関連などを解明し、青年期の自我同一性と性役割、価値観その他の態度および諸意識の構造と機能との関連を明らかにし、それらの形成に対する要因としての対人関係や生活背景、およびその結果としての精神的自立やさらに進んで精神的健康の問題を解明する方向に研究を展開していく必要があるものといえる。また、Marciaの指摘にもあったが、多くの青年研究はその対象が大学生に限定されがちである。特に日本では前期や中期にあたる中学生、高校生あるいは就労している青年を対象にして調査をすることは種々の問題との関係で非常に困難であることから、便宜的に大学生を対象に調査を実施することが多くなるのは必然ともいえよう。しかし、このままでは青年研究の限界がひじょうに早い時期にくるものと予測される。そのため、調査対象を拡大することは解決すべき当面の課題であるといえる。それによって、青年期のもっと事実在即したパーソナ

リティ形成の様相が解明されるものといえよう。

自我同一性地位の決定については、これまでの研究では基準値の決定をその当該時の被検者の平均値としていたが、被検者の年齢、所属等の特性によって基準値に若干の変動があり、自我同一性の達成状況を相対的にしかとらえていないという欠点があったといえる。今後は青年期にあたる母集団を代表するようなサンプリングを行って、青年期前期、中期、後期という発達段階の様々な生活状況からの被検者を対象にして尺度を実施し、基準値の決定を行うことが当面の課題であると思われる。

自我同一性地位の決定が改められてより適切になることによって、青年期のパーソナリティの研究はさらに発展させることができるであろう。

## 文 献

- 井上知子 1994 性役割と家族—青年期以降の性役割と親子関係 第2回日本青年心理学会 テーマセッションA：青年と家族 (於：神戸大学)
- 井上知子・三川俊樹・芳田茂樹 1995 青年期の価値観に関する研究—自我同一性との関連 追手門学院大学文学部紀要 30 13-31
- 伊藤裕子 1980 女子青年の性役割観と父母の養育態度—職経歴選択を中心として 教育心理学研究 28 67-71
- 伊藤裕子 1995 女子青年の職歴選択と父母の養育態度—親への評価を媒介として 青年心理学研究 7 15-29
- Marcia, J.E., Waterman, A.S., Matteson, D.R., Archer, S.L., & Orlofsky, J.L., 1993 *Ego identity - A handbook for psychosocial research* Springer-Verlag : NY
- 宮下一博 1991 青年におけるナルシズム (自己愛) 的傾向と親の養育態度・家庭の雰囲気との関係 教育心理学研究 39 455-460
- 西平直喜 1990 成人になること—生育史心理学から 東京大学出版会
- 小川一夫・田中宏二 1979 父親の職業が息子の職業選択に及ぼす影響に関する研究 教育心理学研究 27 272-281
- 小川一夫・田中宏二 1980 親の職業が娘の職業選択に及ぼす影響に関する研究 教育心理学研究 28 328-331
- 小野寺敦子 1993 日米青年の親子間系と独立意識に関する比較研究 心理学研究 64 147-152

1996年4月16日 受理

付表 親の養育態度尺度

|             |   |        |
|-------------|---|--------|
| 1. 自律性を尊重する | — | 尊重しない  |
| 2. 解放的な     | — | 閉鎖的な   |
| 3. 肯定的な     | — | 否定的な   |
| 4. 意欲的な     | — | 無気力な   |
| 5. でしゃばりな   | — | 謙虚な    |
| 6. 口うるさい    | — | もの静かな  |
| 7. いらいらした   | — | 落ち着いた  |
| 8. 無関心な     | — | 熱心な    |
| 9. 信頼する     | — | 信頼しない  |
| 10. 個性を尊重する | — | 尊重しない  |
| 11. 支持的な    | — | 支持的でない |
| 12. 子供中心の   | — | 大人中心の  |
| 13. 指示的な    | — | 非指示的な  |
| 14. こせこせした  | — | おうような  |
| 15. 安定した    | — | 不安定な   |
| 16. 無視する    | — | 重視する   |
| 17. いい加減な   | — | きちんとした |
| 18. 公平な     | — | 不公平な   |
| 19. やさしい    | — | 冷たい    |
| 20. 拘束的な    | — | 放任的な   |
| 21. 意地の悪い   | — | お人よしの  |
| 22. 厳しい     | — | 甘い     |
| 23. 感情的な    | — | 理性的な   |
| 24. ばらばらな   | — | 一貫した   |
| 25. 平等な     | — | 不平等な   |
| 26. にこやかな   | — | 無表情な   |
| 27. 保護的な    | — | 自由な    |
| 28. 統制的な    | — | 非統制的な  |
| 29. しつこい    | — | さっぱりした |
| 30. 拒否的な    | — | 受容的な   |